

Contents

- ・【報告】特別展『岩合光昭写真展 こねこ』
特別展『THE新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦』
- ・【予告】特別展『金曜ロードショーとジブリ展』
- ・【報告】コレクション展第Ⅰ期、第Ⅱ期
- ・【準備中】「みんなのキンビ」プロジェクト進捗
- ・【紹介】メタバース、新ロゴマーク

秋田県立近代美術館ニュース [アーク]

ARK No.88

2024.4-9



▲岩合光昭さん講演会の様子。



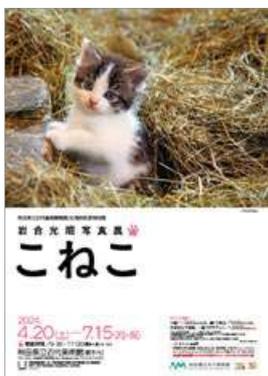
▲みなさんの「うちのネコ」ベストショットがズラリと並びました！



「うちのネコがいちばん! 写真大募集」では5点の作品に岩合光昭賞が贈られました! たくさんのご応募ありがとうございました!



▲ABSアナウンサーと担当学芸員によるギャラリートーク



【会期】
2024年4月20日(土)～
7月15日(月・祝)

本展では、写真家・岩合光昭さんが撮り続ける「ねこ」から、更に「こねこ」に絞った作品をご紹介します。世界各地に分けた展示構成からは、世界のどこでも元気な「こねこ」と、一緒に暮らす親ねこや人間、他の動物たちが仲睦まじく暮らす様子が伝わってきました。

関連イベントとしてこどもの日に開催した岩合さんの講演会&サイン会では、会場に溢れかえるファンの多さから、改めて岩合さんと「ねこ」の人気の高さを感じました。また、「うちのネコがいちばん! 写真大募集」では、来場者が持参した自宅のネコの写真で会場入口を一杯にしたほか、ABS秋田放送のアナウンサーと担当学芸員とのギャラリートークも開催するなど、本展開催中は美術館が「こねこ」で溢れた幸せな空間となりました。(担当…保泉)

特別展 報告

こねこ

開館30周年記念特別展
岩合光昭写真展



秋田県立近代美術館
開館30周年記念

コレクション展

報告

〈第Ⅰ期〉

美術館であいましょう

公立美術館の役割の一つでもある、地域美術の収集と保存。本展では30周年の節目に収集の過程をご紹介します。つづ、多様な代表作をお楽しみいただきます。

当館の収集は、県立博物館の美術部門による基礎的な資料収集に端を発しています。そして、その性質を引き継いだ地道な作家研究や、故郷に思いを寄せる方々からの寄贈を受け、近世・近代の秋田を代表するコレクションを形成することができました。一朝一夕では作り得ない地域の財産となつていきます。



【会期】

2024年4月11日(木)～
7月1日(月)



▲横手市立旭小学校2年生の皆さんの鑑賞。
この絵、どんな絵？

▶代表作の並ぶ展示室内



一方、展示で紹介したように、昔の県立美術館が当時の作家たちのインタビューや作品収集をしていたことは課題として示唆的です。途方もなく広がる美術の世界を、これからの「美術館」でどのようにおさめてゆくのか、考える機会となりました。
(担当：鈴木)

報告

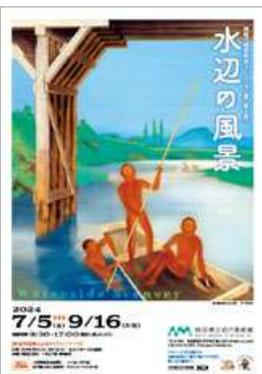
〈第Ⅱ期〉

水辺の風景

当館のコレクションを中心に「水辺の風景」が表された秋田蘭画・日本画・版画・工芸を約40点紹介しました。ふるさとの象徴として水辺を描いた作家、水面のきらめきを独特な技法で表した作家、敗戦を機に郷里へ戻り「国破れて山河あり」の思いを胸に終生その美しさや荘厳さを追求めた作家など、テーマを設けて展示するからこそその気づきがたく



▲第2展示室風景



さんありました。ご来場くださった方からは「涼やかで夏の開催にぴったりだった」「どの作品も見応えがあった」などのお声をいただきました。
(担当：奈良)

【会期】

2024年7月5日(金)～9月16日(月・祝)



ギャラリートーク

特別展
報告

開館30周年記念特別展
THE新版画 版元・渡邊庄三郎の挑戦

新版画を牽引し世に広めた版元・渡邊庄三郎の挑戦の軌跡をたどりつつ、伊東深水や川瀬巴水らの貴重な作品をおして新版画の魅力を紹介しました。風景画を中心に美人画・役者絵・花鳥画など約190点の作品により構成された展示室で、新版画の瑞々しい情趣や清新な感覚にたっぷり浸っていただけたのではないのでしょうか。



▲橋口五葉の美人画など



▲川瀬巴水《東京十二題 こま形河岸》 大正8年(1919) 渡邊木版美術画舗蔵

全国を巡回している本展ですが、当館では巴水が描いた秋田の風景画も特別出品されました。男鹿をはじめ八郎潟や田沢湖といった景勝地はもちろん、秋田市内の空素沼や土崎なども描かれており、およそ100年前の美しい風景がノスタルジックにも感じられました。入場者数としては期待していたほどではありませんでしたが、新版画の魅力は十分に伝わったと思っています。(担当：秋田)



【会期】
2024年7月20日(土)～
9月23日(月・振休)

会期初日には、渡邊章一郎さん(渡邊木版美術画舗・代表取締役)による特別講演会を開催しました。前日の内覧会の際にもギャラリートークを行い、新版画の魅力について熱く語っていただきました。



特別展

予告

開館30周年特別展

金曜ロードショーとジブリ展

日時フリーチケット販売中!

【会期】2024年10月12日(土)～2025年1月13日(月・休)

※年末年始休館：2024年12月30日～2025年1月1日

高畑勲監督や宮崎駿監督の作品を中心に、数々の名作アニメーションを世に送り出してきたスタジオジブリ。その作品が親しまれ、日本中で愛されるようになった背景には、日本テレビの長寿番組「金曜ロードショー」の存在があります。1986年には「風の谷のナウシカ」が初めて同番組で放映され、以降、多くの作品が繰り返しお茶の間に届けられました。同じ時間に、日本中でたくさんの人が観る、特別な体験—本展では、スタジオジブリ作品の魅力と、「金曜ロードショー」で放映された時代の記憶と記録を、ともにご紹介します。

会場では、これまで語られなかったジブリ作品放映の秘密が明かされるほか、作品の世界に飛び込めるような、さまざまな空間が登場します。この機会に是非お楽しみください!

(担当：木村)



(C)Studio Ghibli



会期中はチケット販売所の混雑が予想されるため、来館前のチケット購入をおススメしております。

展示報告 ふれんどりーギャラリー

『佐藤悟 日本画展』

【会期】5月10日(土)～6月9日(日)

日本画教室「静物を描く」の講師・佐藤悟さんの展覧会を開催しました。佐藤さんは日本美術院展覧会(院展)で奨励賞を受賞し、現在は日本美術院院友、院展秋田分会会長、秋田県美術展覧会専門委員を務めるなど、県内外



《いちょう落ち葉道》

で活躍されている日本画家です。

今回の展覧会では、日本画教室で使った技法“揉み紙”(和紙を揉んでシワを作る技法)で描いた作品をはじめ、凍った波紋が残る湖、イチョウの落ち葉で覆われた道、



木立が写る水面と水中に沈んだ落ち葉を同じ画面に描いた作品など12点を展示していただきました。佐藤さんが日々の暮らしの中で目にする風景を描いた作品は、ふれんどりーギャラリーをひととき心安らぐ空間に変えてくれました。(担当:保泉)



《みなと》

次回展示予告

ふれんどりーギャラリー『伊藤由美子 版画展』

【会期】10月12日(土)～11月17日(日)

新ロゴマークの紹介



秋田県立近代美術館
AKITA MUSEUM OF MODERN ART

<ロゴコンセプト>

秋田の自然と、文化を継承しながら未来を志向する近代美術館の姿を、先進的に表現したロゴマークです。シンボルマークは、「Akita Museum of Modern Art」の頭文字から「A」と「M」を組み合わせ、山河の形と、文化を未来へ継承していくさまを、流線型で表現しています。カラーは、知性と清新さ、そして自然の豊かさを感じさせるブルーグリーンを使用しています。ロゴタイプ(文字)は、温かみのあるオリジナルフォントを用いています。

当館の新しいロゴマークが完成しました。ロゴマークは、館の理念や方針を象徴的に表現するもので、シンボルマークとロゴタイプ(文字)を組み合わせられて作られています。

これまで当館には公式のロゴマークが存在しなかったため、令和6年4月の開館30周年を記念して、広くアイデアを公募しました。選考された3案の中から、最終的に県民投票によって選ばれたのが、こちらのマークです。自然豊かな立地と未来への展望を表現した、若々しいブルーグリーンが印象的なデザインとなっています。

なお、これまで親しまれてきたマーク兼ゆるキャラ(?)の「アリゾー」も、引き続き活躍の予定です。新旧のデザインがともに皆様に愛されることを願っています。(担当:鈴木)

やぁ!ぼくはアリゾー。近代美術館で所蔵している重要文化財《不忍池園》に登場する蟻がモチーフになっているよ。これからもよろしくね



「みんなのキンビ」プロジェクト

「みんなのキンビ」プロジェクトは、当館を中心に、様々な機関や市民の皆様と連携し、秋田にくらす誰もがアートを楽しみ、アートを通じてつながる地域づくりを目指す取り組みです。3年計画の2年目となる今年度も、人と人、人とアートをつなぐ「キンビコミュニケーター」の活動、国内外で活躍する専門家をお招きして開催する「キンビ研究会」、子どもたち向けの「キンビ美術部」、視覚以外の感覚も活用した鑑賞を目指す「鑑賞支援ツール」の作成、ご高齢の方や認知症の方とのアート鑑賞など、誰もが生涯を通じてアートを楽しめる活動に取り組んでいます。

これらの活動の成果を皆様にご覧いただくため、2月8日(土)から3月9日(日)まで、「みんなのキンビ展」を開催いたします。ぜひご来場ください。(担当:北島)

高校生から70代まで
幅広い年代の方が参加しています



▲東京藝術大学 教授 伊藤達矢さんをお招きして開催した「みんなのキンビ研究会」



▲第1回キンビコミュニケーター講座
「キックオフイベント
キンビコミュニケーターって何をするの?」



▲第3回キンビコミュニケーター講座
「まなぶ アートコミュニケーションについて知ろう」

メタバース事業の紹介について

メタバースとは、インターネット上に構築された仮想空間であり、ユーザーはアバターを介して自由に動き回り、他者とのコミュニケーションを楽しむなど、様々な体験ができます。この度、秋田県教育委員会は、県立近代美術館のメタバース「メタバース×キンビ」を開発し、令和6年4月より運用を開始しました。

「メタバース×キンビ」では、美術館の特徴的な外観や内観を忠実に再現するだけでなく、小田野直武の《不忍池図》をはじめとする代表的な所蔵作品をデジタル空間内に展示しています。これにより、地理的な制約や時間的な制約を超えて、誰もがいつでもどこからでも近代美術館の所蔵作品を鑑賞することができ



▲福田豊四郎の作品前の様子。作品解説を見ることがもできます。

ます。Windows PCをお持ちの方は、近代美術館のホームページから「メタバース×キンビ」のソフトウェアをダウンロードすることで、どなたでも無料で手軽にご利用いただけます。ぜひ、この新しい鑑賞体験をお試ください。

また、県庁出前講座でも「メタバース×キンビ」を体験できるメニューをご用意しておりますので、まずはそちらで試してみるのもおすすめです。(担当:木村)



出前美術展 報告

令和6年度 秋田県立近代美術館 出前美術展 in 能代エナジウムパーク 「みてさわってたのしむ! キンビアート★」

「みてさわってたのしむ! キンビアート★」と題し、当館が所蔵する《彫刻》と《木のおもちゃ》をやさしくさわりながらお楽しみいただける展覧会を開催しました。金属の板をたたいて成形する【鍛金】という技で作られた《カバ》さんや《ゴリラ》さんは訪れた子どもたちに大人気!また一見するとやわらかそうなのにさわってみると固いという不思議な作品《こんにやく石》に驚く表情も印象的でした。あわせて昨年度開催した「みんなのキンビ展」の出品作《県立栗田支援学校と秋田公立美術大学附属高等学院との協働作品》もご覧いただきました。(担当:藤井)

【会期】2024年9月11日(水)～9月26日(木)



ポスターにもゴリラが…!



彫刻や木の質感の違いも楽しめます

Report 1

上半期実施教室・講座一覧

◆美術館教室

日本画教室……………5/18、19
講師:佐藤 悟さん(日本美術院院友)

アクリル画教室……………9/8
講師:永沢碧衣さん(絵画作家)

◆みんなの教室

木の工作教室(木でつくる からくりボックス!)…7/28

◆きつずあーと

おさかなすいぞくかん……………8/3
スタンプべったんアート……………9/1

2024年下半年期実施予定事業一覧

特別展

「金曜ロードショーとジブリ展」……………10/12～2025/1/13
「みんなのキンビ」展 第2弾……………2/8～3/9

企画展

「Collection meets □□」……………3/15～4/20

コレクション展

第3期「空色—うつりゆく景色」……………2/5～4/13

館外展示

ネットワーク展示(県立図書館との協働展示)
「物語のある絵画」……………11/15～12/24

ふれんどりー ギャラリー展示

「伊藤由美子版画展」……………10/12～11/17

美術館教室 (中学生以上一般)

「版画教室3 ドライポイントとエッチングの
混合技法で銅版画に挑戦!」…10/26,27
講師:伊藤由美子さん(版画家)

みんなの教室 (小学生以上一般)

「羽子板に描こう!」……………12/1

特任館長講座

「江戸時代の美術と文化Ⅲ—宗達・光琳・抱一」
……………10/26,11/16,12/7

Report 2

平丈恵マンドリンコンサート……………8/18

今年度はマンドリン奏者・平丈恵さんをお迎えし、ミュージアムコンサートを開催しました。「ロマンス」「浜辺の歌」など全8曲を演奏していただき、そのうち3曲はギター・神原順一さんとのデュオでお楽しみいただきました。様々な思い出がよみがえるような美しい絃の響きに、みなさんが酔いしれました。



Museum Concert

